

自然の恵みを生かした 持続可能な地域活性化事例集

作成しました

地域のみちかな自然資源で地域を元気に！
持続可能な活用で生物多様性を豊かに！

全国では、積極的な森林管理など地域にある自然資源を見直し、持続可能な活用を行うことで地域活性化を目指す取組がみられます。これらの取組を集めて事例集を作成しました。ぜひ参考にしながら、地域活性化につながる最初の一步を踏みだしてみましょう！

<http://tohoku.env.go.jp/wildlife/index.html>

事例集の電子版（PDF ファイル）を閲覧・ダウンロードできます

自然の恵みを生かした
持続可能な地域活性化事例集

環境省



事例集に掲載している事例について

本事例集では、森林管理や草原管理などに積極的に取り組む 11 の事例を掲載し、取組に活用した仕組みや制度（6次産業化、バイオマス活用、森林認証制度など）、取組によって得られたメリット（地域経済活性化、人口減少抑止など）を紹介しています。

11 事例の中から、森林管理に関わる 3 事例を簡単に紹介します。

事例 芸北せどやま再生事業 [広島県北広島町]

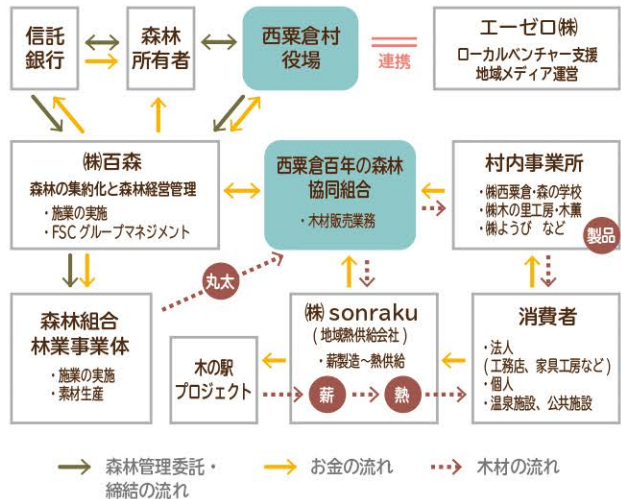
地域の森林を管理する対価として地域通貨「せどやま券」を発行しています。このことにより、森林の管理が進み、また地域内でのみ利用できる通貨を地域の商店街で使うことで、地域にお金が残リ、地域経済が活性化されます。



事例 百年の森林構想 [岡山県西粟倉村]

山主が村と施業管理契約を締結し、管理、流通・販売、資金調達などを地域事業者などが役割分担して行っています。木材は村内での消費を基本とし（地産地消）、そのほか地元事業者が加工まで行い（6次産業化、木材への付加価値づけ）、村外に販売し、地域に還元しています。森林は FSC グループ認証を取得しています。

多様な事業者による百年の森林事業スキーム



※資料提供：岡山県西粟倉村

事例 「三井物産の森」の管理 [全国]

全国 74 か所の社有林が FM 認証を取得し、また認証材が消費者に届くまで認証材として維持されるよう、管理委託先の三井物産フォレストが CoC 認証を取得しています。認証を通して、適切に森林を管理していくためのチェック機能が働いていることや、地域の伝統文化との共存、森を通じた地域貢献が図られています。またバイオマス発電、オフセット・クレジットの販売など森林を多方面にわたって活用しています。



Q&A

Q どうして環境省がこのような森林管理や草原管理の取組を推進するのですか？

A 環境省では、絶滅危惧種でもあるイヌワシの保護の取組を行っています。放棄された人工林が増えたり、草原が減少したことでイヌワシの狩場が減少したために個体数が減ってしまったと言われています。そのため、イヌワシの個体数を増やすことを目標にこれらの取組を推進しています。

環境省東北地方環境事務所

〒980-0014

宮城県仙台市青葉区本町 3 丁目 2-23 仙台第 2 合同庁舎 6F

環境省鳥海自然保護官事務所 (猛禽類保護センター)

〒999-8207

山形県酒田市草津宇湯ノ台 71-1

TEL: 0234-64-4682